

インターバンクの声（2016年8月30日）

週末にイエレン米連邦準備制度理事会（FRB）議長が講演で、過去数ヶ月で利上げの根拠が強まったと述べ、フィッシャー副議長もテレビのインタビューで年内2回の利上げに言及していたことから、東京市場の円相場は102円39銭まで上昇していたが、ニューヨーク市場は101円台後半で週明けの取引を終えた。そもそも金曜日はイエレン議長とフィッシャー副議長の発言から早期利上げ観測が強まったことで、ドル買いに勢いがついてしまったようだが、週明けの東京市場では既にドルの追随買いに慎重になり始めていた。フィッシャー副議長の年内2回の利上げへの言及もテレビ・インタビューで質問を投げ掛けられたに過ぎず、しかもしっかり今後の経済指標の内容次第と条件を付けており、週末を挟んでドル買いに動いた海外勢も冷静さを取り戻した上でのドル売り調整となったのだろう。週明けの反応が調整色の強いドル売りから始まったので、雇用統計の発表前に昨日の東京市場高値を超えていくのは少し難しくなったような気もする。まだ金曜日のドル買いポジションが全て利食われていない以上に、100円台でのドル売りのポジションを抱えたままの人も多く、金曜日はいつもの雇用統計後よりも大きな変動もありそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。